

## 「学校指導体制の整備」に関する主な意見

### 1 教員採用

- 情熱を持って「教育とは何か」真剣に考えてくれる優秀な人材が教員になるように、教育の方向性ととともに、県が力を入れてきちんと考えるべきである。
- 教員のより良い職場環境を整えることで、若い人たちに教職を選んでもらえるようにすべきである。より良い優秀な学生が安心して、教職を選んで、勤め続けられるような環境をしっかりと整えることが大切である。

### 2 学校の組織体制

- 小学校での「加配」教員を低学年、中学年、高学年の「主任教員」（仮称）設置に変える。例えば、「低学年主任教員」ならば1，2年生の教員を束ねるグループ・リーダーとなる。
- 小学校3，4年生に優秀な教員を配置する。学力の分化は3，4年生から始まる。教科が増え、算数、国語の計算、漢字が急に増える。例えば、算数嫌いは3年生から始まる。学級の集団づくりは3，4年生が一番難しい。
- 準要保護者の比率が20%以上の学校に対する支援を行う。校長に人事権を与える。教育委員会は校長がチーム学校体制をつくれるように支援を行う。
- 校長の権限が強まれば強まるほど、校長が異動になるたびに学校のカラーが変わってしまい、保護者だけではなく地域も、どのように手を携えて子どもたちを支えていけばいいのか、方針が変わるつらさや大変さを正直感じる。

### 3 地域連携、コミュニティ・スクール

- 義務教育段階におけるコミュニティ・スクール後進県からの脱出を図る。地教行法において努力義務化された今日の状況を踏まえ、数値目標を掲げ、今後5年間で100%の到達を目指す。
- 社会に開かれた教育課程を推進するには、学校と地域をつなぐ「地域連携担当教員」を置く。地域の事情をよく知った「社会教育士」の資格を持った人がよい。栃木県は導入し、うまくいっている。学校が社会に開かれたほど教員が助かるというデー

タがある。

- コミュニティ・スクールは是非やらなければいけない。地域のPTA会長をやった人がコーディネーターをして、校長、教頭とタイアップすると、スムーズに行く。地域学校協働本部とコミュニティ・スクールをセットでやるとうまくいく。また、千葉県は大学や短大が多いので、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部に大学生も参画させてはどうか。
- 長野県は、信濃版コミュニティ・スクールと呼んでいる。黒潮コミュニティ・スクールとか、千葉県なりの名前をつけるとよいと思う。
- コミュニティ・スクールは、校長に「自分たちが評価される」という先入観があって進んでいない。「評価でない」とはっきり宣言して、準要保護世帯が20%を超えたら、学校はお手あげですというメッセージを送る。そしてコミュニティ・スクールを始めると、これだけで学校は元気になる。このようなケーススタディーが出てくると多くの校長が支持するようになる。
- コミュニティ・スクールの導入に関してPTA経験者を活用するという話があったが、地域と学校の連携に関してはPTA経験者がよいように使われていると感じている。人が来ない。来ても良い人が来ないという状況で、残った選択肢の中で地域が選ばれ、PTA経験者が選ばれるという体制では、皆がどんどん不幸になってしまうと思う。県が旗を振って教員の働き方改革をしっかりと進め、より良い人材を確保してほしい。
- 特別支援学校こそコミュニティ・スクールの導入を検討してほしい。

#### 4 働き方改革

- 運動部活動のガイドラインでは平日の活動時間を2時間程度にするように示されているが、授業が午後4時ぐらいに終わって、そこから部活動を2時間すると、それで教員には残業になってしまう。適切な状態ではないと思うので、長期的に是正してほしい。
- 働き方改革を推進するには、教員の校内の分掌をハッキリさせる必要がある。「教師の業務だが負担軽減が可能な業務」の支援体制を作る。ICTができる業務とそうでない業務を明確にする。足立区では民間校長が教育的事務は教員がしなくてよい業務と専念して欲しい業務をわけていた。
- 世の中が働き方改革と言っているが、ライフワークバランスを考えて、家庭生活を

もっと大切にした職場環境づくりを、今は全体でやっていかなければいけないと思う。

## 5 教員の研修

- 幼小中の接続を明確にする。それぞれがお互いの教育課程を知らない。例えば、小学校の算数部会の教員で数学の教科書を読んでいる人は1割。中学の数学専科の教員で算数の教書を読んでいる人は3割にとどまる。
- 新卒教員の力量アップのために、初任者研修の宿泊合宿を多くして「同輩意識」をつくる。また、年齢の違った教員同士で「ペア研究」を進める。例えば、2年目教員と30代前半の教員のペアグループ。
- 校内の授業研究フェスティバル（短時間の研究授業）を増やす。30分間の模擬授業を検討する。
- 非常勤講師と私立学校の教員も県の研修に参加できるようにする。講師時代に身に付けた「悪い癖」をなくすのに苦勞するという話を聞く。
- 校長には、学校の伝統や特色、継続性を尊重し、地域との連携に配慮した学校経営ができるように研修してほしい。
- 千葉県には、教員を児童相談所等に出向させる非常に珍しいシステムがある。今後、子供の貧困問題、児童福祉と学校教育の連携が必要な時に重要なリソースになるので、研修講師など組織的な活用をお願いしたい。